



登米市教育研究所

〒987-0511 登米市迫町佐沼字袋向 150-1

HPアドレス <http://www.tome-avc.jp/rese/>

TEL 0220-22-8029(相談専用 22-8125) FAX 22-9114

誰でも知っている有名な童話「シンデレラ」ですが、このストーリーに欠かせないのが「ガラスの靴」です。ところが、この「ガラスの靴」、本当はガラスではないのだそうです。「シンデレラ」は古くから伝わる民話を原典としていて、この童話の中に出てくるシンデレラが履いていた靴は、フランス語でリスの毛皮を意味する「vair(ヴェール)」となっていたのを、ガラスを意味する「verre(ヴェール)」と誤訳されたのだそうです。ガラスの靴よりリスの毛皮の靴の方が履きやすいでしょうね。

特別支援教育研修会①



6月7日(金)中田農村環境改善センターを会場に、特別支援教育研修会①が開催されました。

講師は登米小学校 校長の千葉 道夫先生です。

100名を超える参加者は熱心に耳を傾けていました。

<講師の千葉道夫先生>

はじめに、登米市の特別支援教育に関する取組について、教育委員会 活き生き学校支援室 千葉和幸室長から説明がありました。

その後、千葉校長先生から講話をいただきました。「個別の支援計画とその活用方法」と題し、豊富な知識と経験から、分かりやすく説明していただきました。その概要は以下の通りです。

- ◇ 「個別の支援計画」→「個別の教育支援計画」に
- ◇ 「個別の支援計画」とは
 - 生涯にわたって一貫した支援をする計画
 - 学校等の教育機関が中心となって作成する→個別の教育支援計画
 - 学校から社会生活への移行期に作成→個別の移行支援計画
- ◇ 個別の教育支援計画
 - 何のために(適切な支援のため)だれのために(本人、保護者、教師)どうする(活用する)
- ◇ 個別の指導計画
 - 何のために(特別な教育課程による指導のため)だれのために(教師)どうする(指導に役立てるよう活用する)
- ◇ 現行制度においてすでに認められている教育課程編成上の特例→「特別の教育課程によることができる」
- ◇ 特別支援学級と通級による指導を受ける子どもは二つの計画を全員作成
- ◇ 「自立活動」～障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加資質を養う
- ◇ 自立活動の目標
 - 障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養い、心身の調和的な発達の基盤を養う
- ◇ 自立活動の内容
 - 健康の保持 ○ 心理的な安定 ○ 人間関係の形成
 - 環境の把握 ○ 身体の動き ○ コミュニケーション
- ◇ 「合理的配慮」の合意形成
 - 一人一人の障害、教育的ニーズ等に応じ、設置者・学校および本人・保護者により、発達段階を考慮しつつ、合意形成を図る
 - 個別の教育支援計画に明記することが重要
- ◇ 「個別の教育支援計画」とは
 - 一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応
 - 長期的な視点で乳幼児から学校卒業後までを通じて、一貫して適切な支援を行うことを目的として作成
 - 保護者や多様な専門家が作成に参画

- ◇ 「個別の指導計画」とは
 - 個々の子どもの教育課程を具現化したもの(具体的な目標や手立て)
 - 学校における各教科・領域等での具体的な指導のために作成
- ◇ 特別支援教育の考え方
 - 一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う(担い手は先生方)
- ◇ 障害とは・・・障害のある人がない人の社会で生活するときに生まれる「できない」ではなく「支援が必要」ということ
- ◇ 合理的配慮とは
 - 障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を保障するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うこと
 - 一人一人の実態に応じて、個別に提供されるもの
- ◇ 合理的配慮提供のプロセス
 - ① 意思の表明 ② 建設的対話
 - ③ PDCAサイクルを適切に回すこと
 - ④ 合理的配慮の内容を書いて残すこと
 - ⑤ 外部の専門家などの活用
- ◇ 合理的配慮を提供するポイント
 - 学習指導要領を含めた法律やルールなどを理解する
 - 校長がキーマン ○ 子どもの将来像を想定する
- ◇ 登米市 個別の教育支援計画(記入例と説明をいただきました)
 - 特別支援学級版 個別の教育支援計画
 - 特別支援学級版 合理的配慮、個別のプロフィール表
 - 通級による指導版 個別の教育支援計画
- ◇ 個別の教育支援計画の活用方法
 - 作成・活用に当たって大切なこと
 - ・ 無理なく作れて本当に役に立つもの
 - ・ 「立てたら終わり」ではなく、何度も見直し修正していく
 - 本人・保護者と建設的な意見を交わし合意形成を図りながら、微修正などを行い、常に連携をとる
 - 校内での協力支援体制を構築するために、校内支援会議、個々のケース会議の配付資料として使う
 - 異校種間の引き継ぎ資料として使う
 - 関係機関との連携を深めるための協議資料として活用する



<研修会の様子>



- <参加者の感想(抜粋)>
 - 個別の教育支援計画について基本的な考え方や活用方法について分かりやすく丁寧に教えていただいた。さっそく実践していきたい。
 - 活用という一番大事なところを教えていただき、市全体として同じ方向性で動けるのでよかったと思う。
 - 個別の教育支援計画は現在作成中だが、何度も見直し修正して、子どもの実態をみて改善することが大切と分かった。
 - 通級指導や合理的配慮を考えた支援計画の立て方を学ぶことができ、たいへんよかった。
 - 個別の教育支援計画の記述の仕方について、例をあげながら要点を教えていただき、作成する際の参考にしたい。
 - 保育所等からの支援や引き継ぎの大切さを感じた。

<No.4の答え>

お	き	き	あ	あ
	4	3	1	
2				

左からおととい、きのう、きょう、あした、あさつととなります。

答えは「たいよう」です。

頭の体操



た-1=く
つ-1=そ
し-1=ん

左のような式をもとにすると、下の□に入る平仮名は何でしょう。

う-1=□

答え□